

QUESTION ワークシート

●序章 ヒトとして生まれ、人として生きる

QUESTION 0-1

あなたはこれまでどのようなことを経験し、どのようなことに悩み、それを乗り越え、育ってきたのだろうか。また、これからの人生において、どのようなことがあなたを待ち受けているだろうか。

QUESTION 0-2

あなたの父母や祖父母などまわりの年配の人に、どのような子ども時代、青年時代を送っていたのか、また、いまの自分と同じ歳の頃にどのような毎日を送り、どのようなことを考えて生活していたのか、話を聞いてみよう。

QUESTION 0-3

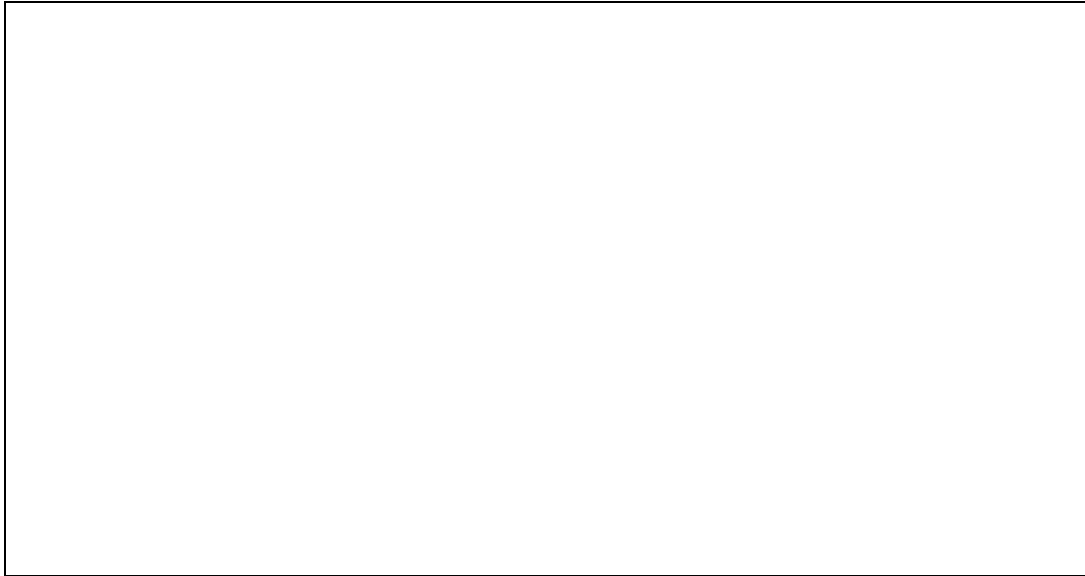
生まれてから死ぬまでの一生涯をいくつかの時期に分けるとするならば、どのように分けられるだろうか。また、そのように分けた理由は何だろうか。

--

--	--

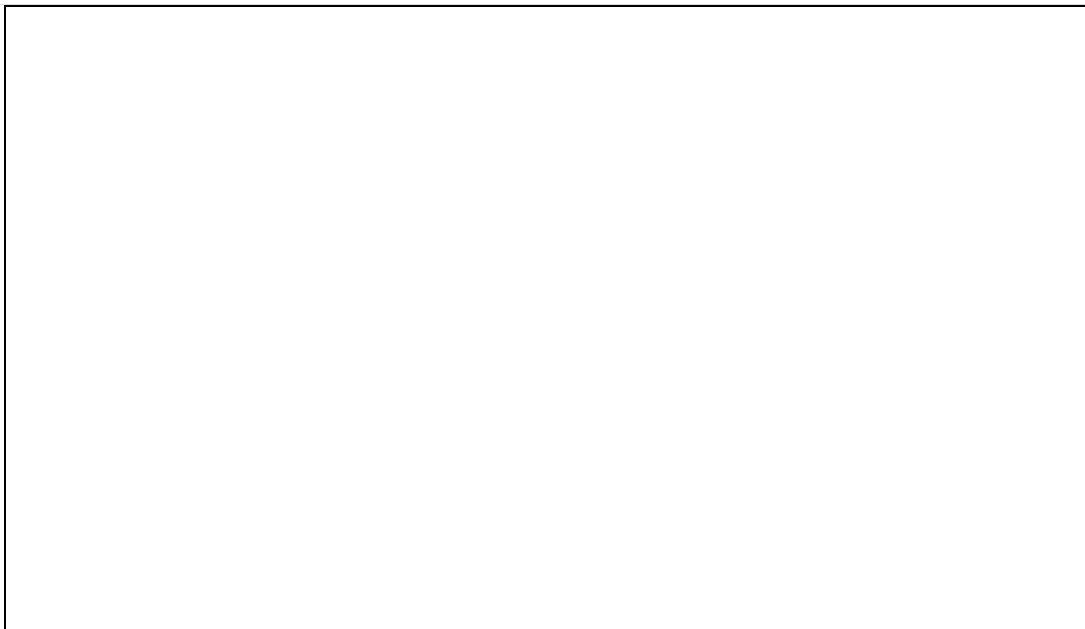
QUESTION 1-1

「心が発達する」とはどういうことだろうか。横軸を時間軸（年齢）とし、縦軸は自由に設定して、あなたが考える「心の発達」をグラフに描いて説明してみよう。



QUESTION 1-2

大正期から現代にかけてのライフサイクルの変化として、寿命の伸長の他にどのようなことがあげられるだろうか。図 1.1 をもとに考えてみよう。



QUESTION 1-3

私たちヒトには、他の動物には見られないさまざまな特徴が備わっている。その特徴を、できる限り多くあげてみよう。また、なぜそのような特徴が備わったのかを考えてみよう。

--

QUESTION 1-4

人の性格（外向性や誠実さなど）、言語能力、空間認知力の個人差に、遺伝や環境はそれぞれどの程度関わっているのだろうか。直感的に答えてみよう。

--

--	--

QUESTION 2-1

ひとりのヒトは、1つの精子と1つの卵子が会って受精し、その受精卵が母親の胎内で約三十数週間をかけて成長し、ようやくこの世に生まれる。このような過程を経て、あなたという人間がこの世に生まれてきた確率はどれくらいだろうか。

QUESTION 2-2

胎外へ出るまでの約9カ月間、胎児は母親の胎内で何をして過ごしているのだろうか。どのように身体を動かしているのだろうか。胎児に人の声や音は聞こえているのだろうか。聞こえているのだとすれば、どのように聞こえているのだろうか。

QUESTION 2-3

あなたを妊娠していた間、あなたの母親や父親はどのようなことを感じたり考えたりしていたのだろうか。また、あなたが生まれた瞬間はどうだったのだろうか。母親や父親に、あなたが母親のお腹にいたときや出産時のエピソードを尋ねてみよう。



QUESTION 2-4

出生前診断を行うことは、誰（親、胎児、医者、社会など）にとってどのようなメリット・デメリットがあるだろうか。話し合ってみよう。

--	--

QUESTION 3-1

次の中で、生後半年の赤ちゃんができることは何だろう？

- (a) お母さんの顔と他の女性の顔の区別
- (b) 小さな数（例えば、「2」と「3」の区別）
- (c) 援助的行為と妨害的行為の区別



QUESTION 3-2

弟や妹、親戚や近所の子どもなど、身近な子どもの様子を観察してみよう（身近に子どもがいない場合は、アニメのキャラクターなどを想像してみよう）。ピアジェの発達段階のどれにあてはまるだろうか。その段階の特徴が、身近な子どものどのような行動に現れているだろうか。

QUESTION 3-3

表象が十分に発達していない世界を考えてみよう。もし、表象能力がなければ、どうやって世の中を理解できるだろうか。

QUESTION 3-4

赤ちゃんの時期に社会性の萌芽が見られる意義を考えてみよう。

--	--

QUESTION 4-1

まるまるとしていて、目が大きな赤ちゃん。赤ちゃんを見たとき、あなたはどう感じるだろうか。赤ちゃんに泣かれたら、どう感じ、何をしようとするだろうか。赤ちゃんに微笑みかけられたら、どう感じ、何をしようとするだろうか。

QUESTION 4-2

多くの国で、子どもが幼稚園に通い始める年齢は3歳とされている。アタッチメントの発達から、その理由を考えてみよう。

QUESTION 4-3

1,2歳前後の子どもと親のやりとりを、何組か観察してみよう。
親子によって、やりとりの仕方にはどのような違いが見られるだろうか。

QUESTION 4-4

幼い頃、あなたはどのような人と、どのような関わりをもっ
ていただろうか。また、その人はあなたにとって、どのような存在（遊び相手、何か
を教えてくれる相手、甘えられる相手など）だっただろうか。

--	--

QUESTION 5-1

私たちが想像の世界を表現したり人に伝えたりする手段には、
どのようなものがあるだろうか。できるだけたくさんあげてみよう。

QUESTION 5-2

言葉話すためには、どのような能力が必要だろうか。思い
つくだけあげてみよう。

QUESTION 5-3



写真の男児はポスターの車の絵を
指さして、母親を見えています。
男児の台詞を自由に考えてください。

--

QUESTION 5-4

保育園や幼稚園に通うくらいの子どもと親との会話や、子ども同士の会話を聞いて、メモしてみよう。どのような特徴があるだろうか。

--

QUESTION 5-5

乳幼児の頃、あなたはどんなことをして遊んでいただろうか。幼い頃の写真を見たり、親に尋ねたり、記憶をたどったりしながら思い出してみよう。

--

--	--

QUESTION 6-1

私たちは、何を手がかりに、自分と他者とは異なること、あるいは、自分が自分であることがわかるのだろうか。

QUESTION 6-2

スーパーなどで、自分の要求が通らなくて床にひっくり返って泣いている2,3歳の子どもをあなたも見たことがあるだろう。この年代の子どもはなぜ、そのような行動をとっているのだろうか。この行動をあなたはどう説明するだろうか。

QUESTION 6-3

自分が社会の規則や規範から外れたことをしようとしているときに、止めたり叱責したりしてくれる人が誰もいなかったとしよう。どのような気持ちになり、その後、どうしようとするだろうか。

--

--	--

QUESTION 7-1

自分自身の子どもの頃のことを思い出してみよう。何歳頃から、他者の感情や考えていることがわかるようになったのだろう。また、何歳頃からそをつけるようになったのだろう。

QUESTION 7-2

「心の理論」がない世界を想像してみよう。私たちがお互いに、人の行動を、欲求や信念といった心の状態と関連づけて考える能力をもっていないとしたら、私たちがふだんしていることで、できなくなることは何だろうか。

QUESTION 7-3

私たちは幼い頃から「うそをつくな」と親や教師から指導を受けるものである。それでは、本当に「うそをつくことが許されない」とすれば、私たちの日常生活にどんな不都合が生じるだろうか。

--

QUESTION 7-4

共感性には、感情認知と感情共有の2つの側面がある。ここで、もし、どちらか一方がうまく働かないとしたら、どのようなことが生じるだろうか。具体例をあげて考えてみよう。

--

--	--

QUESTION 8-1

みなさんが小学生だった頃を思い出してみよう。例えば、算数の時間には、算数セットやおはじきを使って、数のしくみを学んだのではないだろうか。なぜ算数セットで学ぶとわかりやすいのだろうか。大人と子どもの思考の違いを考えてみよう。

QUESTION 8-2

人間の記憶には、どのような種類のものがあるだろうか。できるだけ多く考えてみよう。

記憶のしくみをふまえると、どのような学習のしかたが効率的なものといえるだろうか。

QUESTION 8-3



Blank response area for Question 8-3.

QUESTION 8-4

やる気を高めるには、どのような方法があるだろうか。

Blank response area for Question 8-4.

QUESTION 8-5

記憶や動機づけが単に機能するだけでなく、適切な場面でもまく機能するためには、どのような能力が必要になるだろうか。

Blank response area for Question 8-5.

--	--

QUESTION 9-1

児童期までの認知発達（第7,8章）を基盤に、自分の身体や社会的地位の変化を体験する中で、青年期には心の世界が大きく変わる。では、人間関係や自分に対する見方（認知）にはどんな変化が見られるだろうか。

QUESTION 9-2

あなたにとって“友だち”とはどのような存在だろうか。どのようにして出会い、どのような人が特にあなたにとっての“友だち”となっているだろうか。子どもの頃はどうかだっただろうか。考えてみよう。

QUESTION 9-4

「私自身、思春期の頃は、いまになってなぜあんなことを親に言ったりしたりしたのだろうと恥ずかしくなるくらい反抗した。そして私の2人の子どもも同じように反抗期を経てきた。ああ言えばこう言い、あらゆることに反抗する子どもに、理性は吹き飛び、感情でぶつかりあい、うちの親子関係はおかしいのではないかと思ったりした」。

これは現在2人の子どもをもつ母親となった女性の言葉である。あなたの場合はどうだっただろうか。また、このような対立を経験するか否かによって、発達的にはどのような違いが現れると考えられるだろうか。

--

QUESTION 9-3

友人関係と恋愛関係との間には、どのような違いがあるだろうか。

--

--	--

QUESTION 10-1

子ども、青年、大人のうち、あなたは自分をどれに属すると考えるだろうか。またそのように考える理由は何だろうか。

QUESTION 10-2

次の文章はあなたにどのくらい当てはまるだろうか。もっとも当てはまる場合を5として、5段階で回答してみよう。

- A 自分が将来するかもしれない、いろいろなことについて考える ()
- A 自分に合ういろいろな生き方を考えている ()
- B 自分の人生をどうするのかについては、自分で選んで決めた ()
- B 自分が将来何をやっていくのか、思い浮かべることができる ()
- C 自分がすでに決めた将来の計画について考える ()
- C ほかの人たちと、自分の将来の計画についての話をする ()
- D 私の将来の計画は、自分にとって正しいものに違いない ()
- D 将来の計画があるから、私は自信をもっている ()
- E 人生で本当にやりとげたいことは何か、はっきりしない ()
- E 自分が進みたい人生を、ずっと探し続けている ()

これは、アイデンティティがどのような状態にあるのかをとらえる尺度の項目の一部である。自分のアイデンティティを探し求める態度 (A)、そこから答えが見えてきた状態 (B)、出した答えで本当にいいかどうかさらに見極めようとする態度 (C)、その答えでよいと確信をもつことができている状態 (D)、アイデンティティを探し求める過程で悩みにはまりこんでいる状態 (E) の5つの側面をとらえようとするものである。

A、Cが高く、B、Cが中程度に高くEが低い場合には「達成」、A、Cのみが高い場合は「早期完了」、A、B、C、Dのいずれも高い場合には「探索モラトリアム」、Eのみが高い場合やA、B、C、Dのいずれもが低い場合には「拡散」の状態と解釈される (Luyckx et al., 2008)。

QUESTION 10-3

あなたが仕事を選ぶ際に重視するのはどのようなことだろうか。次の中からいくつでもあげてみよう。まわりの友だちや親や祖父母など世代の違う人にも尋ねてみよう。そのときは、最初に就職したときのことを思い出してもらって答えてもらうようにしよう。



- ①仕事内容, ②収入, ③職場の雰囲気, ④労働時間, ⑤自分を生かすこと, ⑥通勤の便, ⑦将来性, ⑧能力を高める機会があること, ⑨専門的な知識や技能を生かせること, ⑩事業や雇用の安定性, ⑪仕事の社会的意義, ⑫その他 ()

QUESTION 10-4

次の考えについて、あなた自身は賛成か、反対か、考えてみよう。また、そう答える理由を考えてみよう。

- ① 男女と一緒に暮らすなら結婚すべきである
② いったん結婚したら性格の不一致くらいで別れるべきではない
③ 生涯独身で生きるというのは望ましい生き方ではない
④ 結婚したら、家庭のために自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ

--	--

QUESTION 11-1

かつて、40 歳は「不惑」、「四十にして惑わず」といわれたが、青年期や成人初期に感じた揺らぎはなくなるのだろうか。人生後半も発達するのだろうか。

QUESTION 11-2

人びとは、職業生活では、どのような発達が認められるのだろうか。また、成人中期には、どのような課題に向き合うのだろうか。



QUESTION 11-3

あなたが親になるとしたら、子どもは何人？ 子育てはどのような成長につながるのだろうか。母親は仕事を辞めて、子育てに専念した方がよいのだろうか。

--	--

QUESTION 12-1

成人後期（高齢期）になると、どのような心理的变化が起こるのだろうか。また、あなたは高齢者や歳をとることをどのようにとらえているだろうか。

QUESTION 12-2

【加齢に関するクイズ (FAQ)】

【実施方法】 次のことがらについて、正しいと思う場合は T（真）を、誤りと思う場合は F（偽）を○で囲んでください。

- | | |
|---|-----|
| 1) 大多数の高齢者は、記憶力が落ちたり、ぼけたりする | T F |
| 2) 高齢になると耳や目などいわゆる五感がすべておとろえがちである | T F |
| 3) ほとんどの高齢者は、セックスに対する興味も能力ももっていない | T F |
| 4) 高齢になると、肺活量が落ちる傾向がある | T F |
| 5) 大多数の高齢者は、多くの時間をみじめな気持ちで過ごしている | T F |
| 6) 肉体的な力は、高齢になるとおとろえがちである | T F |
| 7) 少なくとも、1 割の高齢者は養護老人ホーム、特別養護老人ホームなどに長期間入所している | T F |
| 8) 65 歳以上で車を運転する人は、若い人よりも事故を起こす率が低い | T F |
| 9) ほとんどの高齢者は、若い人ほど効率よく働けない | T F |
| 10) およそ 8 割の高齢者は健康で、普通の生活をおくるのにさしつかえない | T F |
| 11) ほとんどの高齢者は、自分の型にはまってしまって、なかなかそれを変えることができない | T F |
| 12) 高齢者は、何か新しいことを学ぶのに若い人よりも時間がかかる | T F |
| 13) 大多数の高齢者にとって、新しいことを学ぶのはほとんど不可能である | T F |
| 14) ほとんどの高齢者は、若い人よりも反応時間が長い | T F |
| 15) だいたい、高齢者というものは、みな同じようなものだ | T F |
| 16) 大多数の高齢者は、めったに退屈しない | T F |
| 17) 大多数の高齢者は、社会的に孤立しており、またさびしいものだ | T F |
| 18) 高齢者は、若い人よりも職場で事故にあうことが少ない | T F |
| 19) 日本の人口の 4 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者である | T F |
| 20) ほとんどの医師は、高齢者の治療より若い人の治療を優先する傾向がある | T F |
| 21) 一人暮らしの高齢者の半分以上は、生活保護を受けている | T F |
| 22) ほとんどの高齢者は、現在働いているか、または家事や奉仕活動でもよいから何らかの仕事をしたいと思っている | T F |
| 23) 高齢者は年をとるにつれて、信心深くなるものだ | T F |
| 24) だいたいの高齢者は、めったにおこったり、いらいらしたりしない | T F |

(出所) 西村・平沢, 1993 を改変。

QUESTION 12-3

高齢期には、知的能力は衰えてしまうのだろうか。衰えを回避できるのだろうか。また、老賢者といわれるような知恵を身につけることができるのだろうか。

QUESTION 12-4

死が身近になる高齢者にとって、パーソナリティは変容するのだろうか。人生をどのように振りかえり、意味づけるのだろうか。

QUESTION 12-5

あなたは、将来、生涯現役と悠々自適の生活のどちらが希望だろうか。また、高齢者にとって、孫はどのような存在だろうか。

QUESTION 12-6

超高齢社会の中で、高齢者にとって、死はどのようなものだろうか。50年後、あなたは、重篤な病気や死期の告知を望むだろうか。延命治療を望むだろうか。親や祖父母のこととして考えると、何か違いはあるだろうか。

--	--

QUESTION 13-1

幼稚園で、A君は皆が鬼ごっこをしても気にせず、1人でミニカーを並べている。B君は紙芝居の時間、立ち歩いたり先生に話しかけたりしてしまう。集団のルールを守って皆と同じ行動をとるよう、叱るべきだろうか。

QUESTION 13-2

あなたの周りにいる人の大半はスワヒリ語を話すか、あなたは日本語しか話せなかったとしよう。①あなたがこの先、周りの人たちとコミュニケーションをとれるようになるためには、どのような方法が考えられるだろうか。②スワヒリ語が話せないあなたを、もし、周りの人たちが繰り返し嘲笑したり叱責したりしたら、あなたはどのように感じるようになるだろうか。

QUESTION 13-3

認知症になると、何もわからなくなるのだろうか。あなたの家族が日時を間違えたり、季節はずれの服を着ていたらどうしたらいいのだろうか。

--

QUESTION 13-4

「情報化」など、現代を表す言葉をできるだけ思い浮かべてみよう。時代や文化は、発達やつまずきにどのような影響を及ぼすのだろうか。

--

--	--